

「秋田信用金庫職員としての心構え」

割山支店 白戸 優也

自己紹介

白戸 優也

(24歳)

Yuya Shiroto

出身校

秋田商業高校

入庫年・勤続年数

2020年・6年

特技

小学校3年から始めた野球 「あきしん野球部」在籍中

趣味

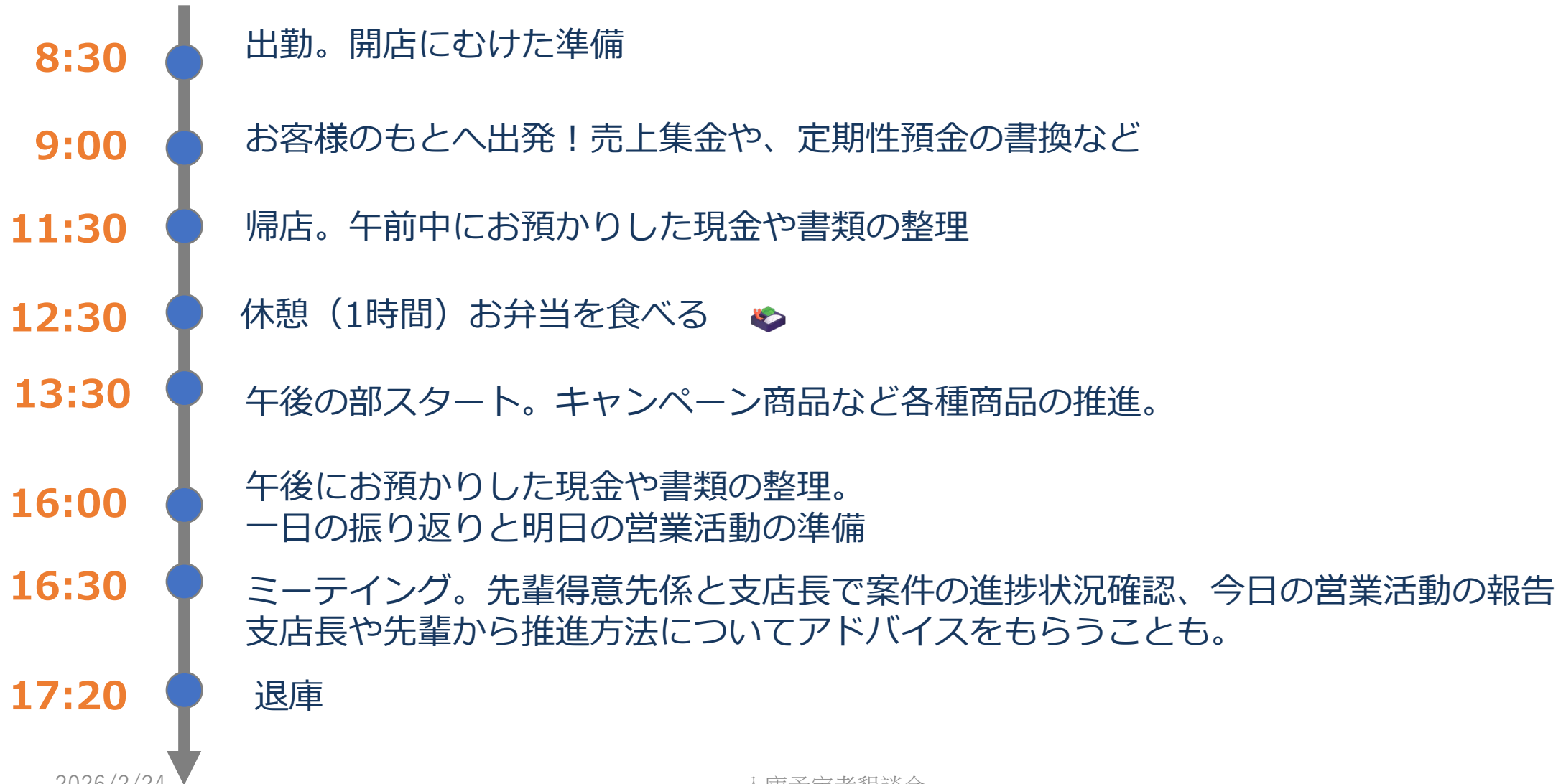
野球観戦（楽天イーグルス）、スキー、体を動かすことが好き



これまでの経験

	アクション	担当業務など
2020年3月	・秋田商業高校卒業 軟式野球部に所属 コンビニでのアルバイト経験あり	情報処理の資格取得
2020年4月	・秋田信用金庫 入庫 広面支店配属	後方事務からスタート
2021年4月	・船越支店へ異動	後方事務（1年間）
2022年4月	・後方事務から得意先係へ係替え	得意先係（2年間）
2024年4月	・割山支店へ異動	得意先係

「得意先係」白戸の1日のスケジュール



現在の仕事内容とやりがい

仕事内容

- ・ 営業店でお客様をお迎えするのではなく、担当エリアのお客様（個人・法人）を訪問します。各種金融用商品の提案を行います。ときには経営のご相談をうかがうことも。
- ・ 窓口担当よりもお客様との距離は近くなり、お客様との信頼関係が重要なカギとなる「あきしんの顔」といえるポジションです。

やりがい

- ・ お客様から感謝された瞬間にいちばんやりがいを感じます。
- ・ 「ありがとう」とお客様に言ってもらえた時のうれしさは格別です。

秋田信用金庫に決めた理由

01

野球の試合

高校2年生の9月に「秋商軟式野球部」と「あきしん野球部」との練習試合

02

試合前

試合開始直前に先発投手を告げられる。緊張の極み。

03

試合をしてみたら？

楽しみながらも勝負所では真剣に取り組んでいる姿に感銘を受ける。

04

結果

卒業後も野球を続けながら働きたい気持ちが大きくなり、当金庫を受験。

入庫前と入庫してからの気持ちの変化

責任が伴う

- ・ 社会人としての「責任」が伴うという心境の変化が一番大きい。
- ・ 時間や約束を守れないことは自分の信頼を失うことにつながる。
- ・ 現金の数え違いは信用問題につながる。
- ・ 不安なことやわからないことはそのままにしない

時間の使い方

- ・ 学生時代とは全く違う。
- ・ 入庫前に生活習慣の見直しをした方がよい。



成功したこと/失敗したこと



成功したこと

- ・ 個人業績評価で上位入賞できたこと。
達成感を感じることができた。仕事に慣れてきた頃であり、営業店や自分の目標を意識しながら営業活動をした結果であり、自分の自信にもつながった。



失敗したこと

- ・ 初めて担当した住宅ローンで、自分のミスからお客さまに何度も営業店に足を運ばせてしまったこと
- ・ 必要書類を再確認することで、ミスは少なくできる。
- ・ 初めて担当する業務はもちろん、慣れてきたときこそ基本に返ることが重要。

当面の目標/将来の夢

当面の目標

- ・「信頼される職員」になること

口で言うのは簡単だが、人から信頼されることは簡単ではない。
お客さまのタイプは様々であり、「好き嫌い」という自分の物差しで測らない。
常に相手への思いやりを忘れないことが大事。

将来の夢

- ・「支店長になる」

自分がどうなりたいのかという目標を常に持ち、業務に取り組みたい。
まだまだ経験が浅く、組織をまとめる、人の上に立つという難しさやプレッシャーはわからないが、入庫した以上は何事にも貪欲で取り組みたい。

皆さんへのメッセージ/そのほかに伝えたいこと

メッセージ

- ・先輩方が親身になってフォローしますので、安心して業務に取り組んでください。
- ・私たち、秋田信用金庫の職員ができることを精一杯頑張りましょう！
- ・皆さんと一緒にお仕事ができる日を楽しみにしています。

伝えたいこと

- ・AIの発達により、金融機関の仕事をAIが担い、人間がいなくなる日が来るかもしれません。
- ・しかしながら、私たち信用金庫の地域に根ざした金融機関という存在意義はとても大きいものです。AIにはない「人の温かみ」を強みに秋田信用金庫職員としての使命を果たせるよう、皆さんのフレッシュパワーを存分に発揮し、一緒に秋田を盛り上げていきましょう！